

## 第78回優良公民館表彰 表彰館一覧

最優秀館 (1館)			
都道府県名	市町村名	公民館・施設名	キャッチフレーズ
東京都	国立市	くにたちしこうみんかん 国立市公民館	誰もが「ともに学びあう」共生の地域を創る

優秀館 (5館)			
都道府県名	市町村名	公民館・施設名	キャッチフレーズ
宮城県	登米市	とめしとよまごうみんかん 登米市登米公民館	One for all All for one
長野県	塩尻市	しおじりしちゅうおうこうみんかん 塩尻市中央公民館	地域をつなげ、楽しくつながる公民館を目指して
島根県	益田市	ますだしやすだごうみんかん 益田市安田公民館	笑顔の花咲く安田公民館
岡山県	西粟倉村	にしあわくらそんあわくらかいかん 西粟倉村あわくら会館※	人と人をつなげるジェネレーター
鹿児島県	鹿児島市	かごしましまつもとごうみんかん 鹿児島市松元公民館	学び・つどい・つながる 松元公民館

表彰館一覧 (上記6館含む)				
No.	都道府県名	市町村名	公民館・施設名	キャッチフレーズ
1	北海道	今金町	いまかねちようみんせんたー 今金町民センター※	動く公民館
2	北海道	奈井江町	ないえちようこうみんかん 奈井江町公民館	"ずどーん"と町民が集う公民館
3	青森県	八戸市	はちのへしりつこうようこうみんかん 八戸市立江陽公民館	災害に強い地域づくりを目指して
4	青森県	弘前市	ひろさきしりつちゅうおうこうみんかん 弘前市立中央公民館	地域の未来へ！ 学校＋公民館
5	岩手県	一関市	いちのせきしむろねしみんせんたー 一関市室根市民センター※	集い語らい「力合わせてみんなで創ろう」豊かな室根！
6	岩手県	野田村	のだむらそうごうせんたー 野田村総合センター※	くらしの中の 高め合いとふれ合いの場
7	宮城県	登米市	とめしとよまごうみんかん 登米市登米公民館	One for all All for one
8	秋田県	横手市	よこてしあさくらちゅうこうゆうせんたー あさくらかん 横手市朝倉地区交流センター あさくら館※	地区住民が主役！ 学校と地域の連携から
9	福島県	川俣町	かわまたまちちゅうおうこうみんかん 川俣町中央公民館	『これからも“学び” 続けよう』
10	茨城県	筑西市	ようさんこみゆにていせんたー 養蚕コミュニティセンター※	三世代でまちづくり
11	茨城県	古河市	こがしちゅうおうこうみんかん 古河市中央公民館	なんでもchallenge!～公民館の限界に挑戦～
12	群馬県	高崎市	たかさきしちゅうおうこうみんかん 高崎市寺尾公民館	中学校と地域をつなぐ公民館
13	群馬県	前橋市	まえはしかみかわふちこうみんかん 前橋市上川淵公民館	こどもの体験とチャレンジを応援する地域拠点
14	埼玉県	戸田市	とだしりつにいぞこうみんかん 戸田市立新曽公民館	公民館で広がる探究の輪 学びと芸術の共演

## 第78回優良公民館表彰 表彰館一覧

No.	都道府県名	市町村名	公民館・施設名	キャッチフレーズ
15	埼玉県	深谷市	ふかやしおかべこうみんかん 深谷市岡部公民館	高齢者も学び合い、交流で輝く地域づくり
16	埼玉県	所沢市	ところざわしとみおかまちづくりセンター 所沢市富岡まちづくりセンター	地域と共に成長する富岡まちづくりセンター
17	東京都	国立市	くにたちしこうみんかん 国立市公民館	誰もが「ともに学びあう」共生の地域を創る
18	神奈川県	平塚市	ひらつかしりつおのおこうみんかん 平塚市立大野公民館	元気も学びも大野から！
19	神奈川県	伊勢原市	いせはらしりつちゅうおうこうみんかん 伊勢原市立中央公民館	故郷いせはら 文化・伝統を地域と守り抜く
20	新潟県	三条市	さんじょうしおおじまこうみんかん 三条市大島公民館	おおじま & すごろ 地域をつなぐ公民館
21	富山県	黒部市	くろべりつうちやまこうみんかん 黒部市立浦山公民館	よってかれ～。笑顔の集う公民館
22	富山県	高岡市	たかおかしふくたちいきこうりゅうせんたー 高岡市福田地域交流センター※	福田だよりとSNSを軸に地域づくり～公民館・地域一体の取り組み～
23	石川県	加賀市	かがしりつはしたてこうみんかん 加賀市立橋立公民館	自然と歴史に寄り添うまち～つながりと豊かさを求めて～
24	石川県	穴水町	あなみずちょうつあなみずこうみんかん 穴水町立穴水公民館	世代間交流による仲間づくり
25	石川県	白山市	はくさんしりつちょうやこみゆにていせんたー 白山市立蝶屋コミュニティセンター※	さくらが教えてくれた、ふるさとのやさしさ
26	石川県	金沢市	かなざわしとがしこうみんかん 金沢市富樫公民館	子供たちと手を携え安全・安心の未来社会を
27	福井県	福井市	ふくいししみずひがしこうみんかん 福井市清水東公民館	清水東の宝《越前すげ笠》伝統文化継承の為に
28	山梨県	上野原市	うえのはらしおおめこうみんかん 上野原市大目公民館	地域でつくる公民館
29	長野県	塩尻市	しおじりしちゅうおうこうみんかん 塩尻市中央公民館	地域をつなげ、楽しくつながる公民館を目指して
30	長野県	豊丘村	とよおかむらこうみんかん 豊丘村公民館	SDGs・ESDの推進拠点施設～微力だけれども決して無力ではない～
31	岐阜県	土岐市	とくしりつひだこうみんかん 土岐市立肥田公民館	町民運動会からみんなのフェスティバルへ
32	静岡県	静岡市	しずおかしおきつしょうがいがくしゅうこうりゅうかん 静岡市興津生涯学習交流館※	学びと出会える場所
33	静岡県	静岡市	しずおかしなんぶしょうがいがくしゅうせんたー 静岡市南部生涯学習センター※	花とみどりで地域を盛り上げる
34	愛知県	蒲郡市	がまごおりしふそうこうみんかん 蒲郡市府相公民館	学校と公民館から広がる新しい地域の輪
35	愛知県	瀬戸市	せとしすいなんこうみんかん 瀬戸市水南公民館	水南公民館でつながる、心と心の交流
36	京都府	宮津市	みやづちこうみんかん 吉津地区公民館	地域の魅力を知り つながる 吉津地区
37	鳥取県	鳥取市	とっとりしりつこわしがわちこうみんかん 鳥取市立小鷲河地区公民館※	災害で誰も死なないまちづくり
38	島根県	益田市	ますだしやすだこうみんかん 益田市安田公民館	笑顔の花咲く安田公民館
39	岡山県	津山市	つやましひろのこうみんかん 津山市広野公民館	子ども地域の主役

※・・・公民館と同等の施設

## 第78回優良公民館表彰 表彰館一覧

No.	都道府県名	市町村名	公民館・施設名	キャッチフレーズ
40	岡山県	里庄町	さとしょうちょうちゅうおうこうみんかん 里庄町中央公民館	集う！つながる！笑顔広がるまちなまなか
41	岡山県	西粟倉村	にしあわくらそんあわくらかいかん 西粟倉村あわくら会館※	人と人をつなげるジェネレーター
42	広島県	広島市	ひろしましわせたこうみんかん 広島市早稲田公民館	集い、学び、つながる坂の上の公民館
43	広島県	広島市	ひろしましこいうえこうみんかん 広島市己斐上公民館	茶臼山のふもと 己斐上学区の「へそ」己斐上公民館へようこそ！
44	広島県	福山市	ふくやましつねかねまるこうりゅうかん 福山市常金丸交流館※	地域が教室、交流館が架け橋
45	山口県	周防大島町	すおうおおしまちょうおおしまこうみんかん 周防大島町大島公民館	未来を担う子ども達のために Smile(笑顔) Safety(安全) Spirit(心)
46	山口県	美祢市	みなしかまこうみんかん 美祢市嘉万公民館	なかまとつながる、地域の拠点
47	山口県	山陽小野田市	さんようおのだしすえちいきこうりゅうせんたー 山陽小野田市須恵地域交流センター※	地域の絆を深める交流センターの挑戦：コロナ禍での新しい形のコミュニティづくり
48	徳島県	鳴門市	なるとしせとこうみんかん 鳴門市瀬戸公民館	気軽に立ち寄れる地域拠点を目指して
49	徳島県	徳島市	とくしましすみよし・じょうとうこうみんかん 徳島市住吉・城東公民館	えがおいっぱい みんなで住吉音頭！
50	愛媛県	西条市	さいじょうしおおふきこうみんかん 西条市大保木公民館	夢・元気 ギュッ！と大保木
51	愛媛県	四国中央市	しこくちゅうおうしせきがわこうみんかん 四国中央市関川公民館	「また明日」公民館での合言葉
52	愛媛県	八幡浜市	やわたはましりつかみやまちこうみんかん 八幡浜市立神山地区公民館	地域のまなか、私たちの元気な公民館
53	愛媛県	松山市	まつやましひさえだこうみんかん 松山市久枝公民館	地域とともに子どもを育み伝統文化を守る
54	長崎県	長崎市	ながさきしそとめこうみんかん 長崎市外海公民館	外海の資産を生かす講座と地域行事への参画
55	大分県	中津市	なかつしさんこうこみゆにていーせんたー 中津市三光コミュニティセンター	めざそう！あいさつ世界一
56	鹿児島県	鹿児島市	かごしままつもとこうみんかん 鹿児島市松元公民館	学び・つどい・つながる 松元公民館
57	鹿児島県	指宿市	いぶすきしりつかいもんこうこうみんかん 指宿市立開聞校区公民館	開聞岳が育む地域のきずな 開聞校区公民館
58	鹿児島県	天城町	あまぎちょうぼうさいせんたー（しょうがいがくしゅうすいしんしつ） 天城町防災センター（生涯学習推進室）※	WakuWaku さあ はじめよう！
59	鹿児島県	鹿屋市	かのやしたかまちこうりゅうそくしんせんたー 鹿屋市高隈地区交流促進センター※	たえまなく かがやきながら くり広げられる まなび舎
60	沖縄県	那覇市	なはししみねこうみんかん 那覇市石嶺公民館	♪いこうね いしみね たのしみね♪

※・・・公民館と同等の施設

## 誰もが「ともに学びあう」共生の地域を創る

## 国立市公民館(東京都)



しょうがいのある人・ない人がともに運営する「喫茶わいがや」



ボランティアと連携して行っている「生活のための日本語講座」

## 公民館の沿革・年表

- 昭和30年11月 国立町公民館開館(昭和42年 市制施行)  
 昭和50年 1月 若者たちのたまり場「コーヒーハウス」が始まる  
 昭和54年 4月 公民館改築  
 昭和55年 5月 障害者青年学級が始まる  
 (現在の「しょうがいしゃ青年教室」)  
 昭和56年12月 喫茶「わいがや」オープン  
 平成元年 5月 外国人のための日本語講座が始まる  
 (現在の「生活のための日本語講座」)  
 平成25年 4月 中高生のための学習支援「LABO☆くにスタ」開始  
 令和 6年 6月 公民館ホームページリニューアル  
 令和 7年11月 公民館開館70周年

## 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

## 【喫茶わいがや】

公民館の1階ロビーにある喫茶スペース。公民館に集う若者の活動「コーヒーハウス」のスタッフや「しょうがいしゃ青年教室」に通うメンバーが、しょうがいの有無に関わらずともに運営している。居心地の良い店内や丁寧にハンドドリップしたコーヒーは、多くの市民から愛されている。

## 【生活のための日本語講座】

日本語を母語としない人を対象に、火・水・木曜の週3日、生活で必要となる基礎的な日本語を学ぶ講座を開催。レベルに合わせた5つのクラスがあり、昨年は128名が参加。市民のボランティアグループと連携して実施しており、ボランティアを養成する講座も毎年行っている。

公民館情報		1. 公民館対象人口	76,382人	4. 利用可能時間	9:00~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和30年11月3日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	307日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	256台
7. 運営主体	市町村教育委員会	指定管理者 ( )	その他 ( )		
8. 来館者数	学級・講座 10,988人 その他 人 ( )	貸館、サークル活動 39,975人	講演会、展示会等 人	合計	50,963人
9. 職員数	専任 6人 ( 職員のうち社会教育士の数 1人 )	兼任 1人	非常勤 3人 ( 職員のうち社会教育主事有資格者の数 5人 )	ボランティア協力者 人	合計 10人
10. 予算	市区町村予算 委託金	自治組織等予算	寄附等	その他 ( )	
11. 公民館運営審議会	あり なし	その他 ( )			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	地域防災・減災 地域学校協働活動 伝統文化継承活動 ボランティア養成 その他 ( 憲法・人権・平和・哲学・ジェンダー・表現創作・多文化共生・健康・社会教育学習会 )	デジタル・デバイドの解消 障害者の学び支援 世代間交流活動 地域資源を活用したまちづくり	家庭教育支援 日本語教育の推進 こども・若者の居場所づくり コミュニティ・スクール	体験活動 義務教育未修了者への支援 子育て支援 社会人の学び直し	
13. 施設の特徴、魅力	複合施設 自由記述 ( 主催講座に力を入れており、年間50種類以上の様々なテーマの講座を実施している。 )	図書館 その他 ( )	学校	生涯学習センター	
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	幼稚園・保育所 企業 図書館 ( 桐朋中学校・高等学校、都立第五商業高校、NHK学園高等学校、一橋大学、NPO法人東京学芸大こども未来研究所、一般社団法人真山舎、くにたち男女平等参画ステーション、くにたち中央図書館、くにたち郷土文化館、NPO法人フードバンクくにたち、国立市社会福祉協議会、国立市消防団女性団、国立市ボランティアセンター、国立市赤十字奉仕団 など )	小中学校 NPO 博物館	高校 各種団体 青少年教育施設	大学 行政機関 その他	

## 国立市公民館

OPEN 9:00~22:00

H P <https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/kurashi/shisetsu/3/11114.html>

TEL 042-572-5141

SNS Instagram@coffeehouse\_kunitachi



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- ・国立市は「ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）」を市政運営の理念に掲げており、すべての人を社会的孤立や排除から守り、社会の一員として包み支え合うことを基本としたまちづくりを推進している。市における唯一の公民館である国立市公民館も同様に、ユネスコの「学習権宣言」等を踏まえ、社会参加に制約を受けている市民を含め、すべての人の学習権の保障を目指し、長い歴史の歩みのなかで現在の公民館の事業体系を構築してきた。
- ・国立市公民館には、公民館運営審議会などをはじめ、市民参加の多様な仕組みのもと、市民・職員協働の公民館運営が風土として根付いている。講座等の運営においても市民の主体的な参加を促進し、また多様な市民が学びあうことを公民館事業全体の共通テーマとしている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

以下、誰もが「ともに学びあう」共生の地域を創るというテーマに関係する事業を抜粋して紹介。

### 【しょうがいしゃ青年教室】

しょうがいのある若者となない若者がともに活動して、お互いに学びあう場を作ることを目的にした青年教育事業。スポーツ・クラフト・料理・リトミック・喫茶実習（喫茶わいがやとの連携）・YYW（みんなでやりたいことを自由に企画する）の6種類のコース別講座を毎月開催している。企画は毎回、みんなで話し合いながら決めている。そのほか年に数回クリスマス会や合宿など、共通イベントも開催。現在61名のしょうがいしゃメンバー、71名の若者スタッフが参加している。

### 【にほんごサロン】

「生活のための日本語講座」の参加者等を対象に、月1回程度、会話を楽しみながら交流する様々なプログラムを開催。日本文化やお子さんが通う日本の学校のことを知る機会となったり、外国人に料理を教えてもらったり、学んだ日本語で楽しく会話をしながら地域の方々との交流の機会となっている。また、外国人のための防災団体と連携し、街歩きをしながら避難所を巡るなどして、日本の災害や防災になじみのない外国人が手に入れにくい情報を共有している。

### 【中高生のための学習支援「LABO☆くにスタ」】

市内の中高生を対象に大学生のスタッフによる学習支援を月3回開催。文部科学省・東京都「地域未来塾」補助事業として実施。各回の参加者は中高生約20名、大学生約20名。市民や社会福祉法人から提供いただくお菓子やお弁当を食べながら交流する時間も設けており、学習支援だけではなく、安心して過ごせる「居場所」としても機能。

### 【地域防災講座「公民館de防災」】

公民館全室を使用して実施した令和6年度は、消防団や子ども食堂、ボランティアセンターなど計16団体の協力のもと、防災備蓄の配布や地震波実験、災害時のポリ袋調理体験など11種類のブースを展開した。老若男女問わず192名が参加、市民が防災を学び、日頃の備えについて考える機会となった。



しょうがいしゃ青年教室のスポーツチャンバラ大会。白熱した真剣勝負



にほんごサロン  
消しゴムハンコづくり

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

- ・これらの事業の発信力向上のため、毎月発行する「くにたち公民館だより」の紙面充実と併せて、近年は公民館ホームページをリニューアルし、市民運営のSNSと連動させ、特に若年層への遡及を強化してきた。
- ・どの講座でも、実施後とともに事業を運営する関係者やボランティア、職員で「ふり返り」を必ず行うようにしている。「ふり返り」では活動を見つめ直し、新たな気づきや発見、課題を出し合い、次回以降に向けた運営の工夫等を検討する。このサイクルを繰り返すことで、講座の質が高まるだけでなく、関係者・ボランティア自身の学びや成長にもつなげている。
- ・「LABO☆くにスタ」においては、スクールソーシャルワーカーと連携した情報発信を行い、学校や家庭での悩みを抱える子どもたちの参加につなげている。また、市内で活動する社会福祉士をアドバイザーに位置付け、子どもたちの福祉的な課題に対応する連携体制を構築している。



公民館de防災 スタンプラリー形式で館内を巡りながら、防災について学

## 4. 取組による成果や効果

- ・「しょうがいしゃ青年教室」料理講座に参加した大学生が、「私より断然料理が上手で、むしろ教わってしまった」と感想を述べたように、教える／教わるという関係が時に反転しながら、「ともに学びあう」という関係性が生まれている。また、これらの講座に参加する若者が高校生やしょうがいしゃも巻き込んで自主サークル「ラーメン部」を立ち上げるなど、高校生が大学生になって活動に戻り、講座の枠を超えて人をつなぐ持続的な世代の循環が広がってきている。
- ・地域防災講座では別々に活動している団体が一堂に会し、各団体の交流や情報交換が生まれ、市民同士がつながる場になっている。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・学校教育・社会教育・家庭教育の関係者と学識経験者の計15名からなる公民館運営審議会では、毎月定例会を開催し、各種事業等について調査・審議を行っている。
- ・事業運営に携わる職員10名は、2週間に1回会議を実施し、講座のふり返りや企画に対する意見交換をしている。また、年に数回、職員研修を企画、事例研究や関連部署等との情報交換を行っている。



若者たちの自主的なサークル「ラーメン部」  
公民館の実習室でスープから作る

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

- ・国立市公民館は令和5年7月に「国立市公民館の職員に求められる専門性や基本的姿勢について」という指針を作成・公表した。引き続き、職員も市民と学びあいながら専門性を高める取組を推進する。
- ・今年度迎える70周年を機に、次世代の公民館活動の担い手育成に向けて、若者自身が多様な人たちと「ともに学びあう」場をつくっていく、「ユースワーク」の取組を推進したい。



LABO☆くにスタの様子。公民館で一番大きいホールが満杯になるほどにぎわっている。

# One for all All for one

## 登米市登米公民館(宮城県)



地域を盛り上げる青年団活動



ダンスを通じた共生事業

### 公民館の沿革・年表

- ・昭和22年 登米公民館開設
- ・昭和48年 現在地に登米公民館竣工
- ・昭和60年 宮城県教育功績者表彰受賞
- ・昭和61年 第39回優良公民館表彰受賞
- ・平成25年 とよまコミュニティ運営協議会が指定管理受託
- ・平成26年 第1次とよま地域づくり計画策定
- ・令和5年 宮城県より受託し「共生事業」スタート
- ・令和6年 38の町内会が一本化し組織再編スタート
- ・令和6年 青年団羽波芭酒場結成活動開始
- ・令和6年 第3次とよま地域づくり計画策定

### 左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- とよま応援サポーター青年団の例会で小学生から70代までの多様な世代が参加し、竹灯りづくりのワークショップを開催。町の新たな風物詩創出を目指している。
- 共生事業 GUIDANCE STUDIOのダンス講師KICK-IT氏による奏海の杜の子どもたちとのダンス教室開催。障害のある子どもでも踊れるダンスを学び、盆踊り大会で披露。取組みが県主催の「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in みやぎ」で発表された。

公民館情報		1. 公民館対象人口	4212人	4. 利用可能時間	8:30~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和48年9月30日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	359日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	2台
7. 運営主体	<input type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者 (とよまコミュニティ運営協議会) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 730人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 11,970人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,110人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 1,500人 ( クーリングシelter・居場所としての来館等 )				合計 15,310人
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )				合計 4人
10. 予算	<input type="checkbox"/> 市区町村予算 <input checked="" type="checkbox"/> 委託金 <input checked="" type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( コミュニティビジネス他収入 )				
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( 住民アンケート実施、理事会、コミュニティ部会、町内会振興協議会等 )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 秋まつりやカッパハーフマラソン大会など町の伝統行事への協力・支援 )				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 老朽化しているが、図書館と軽運動もできる大集会室を併設し、社会教育・社会体育の拠点となっている )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 NPO法人奏海の杜、登米町婦人会、登米文化協会、みやぎ北上商工会、NPO法人とよまスポーツクラブ蔵っこ、登米地区体育協会、登米町環境美化奉仕団、スポーツ少年団、他各種団体を協力団体として連携・協働している。				

### 登米市登米公民館

OPEN 9:00~22:00(8:30~17:15) H P <https://miyagi-toyoma.jp/>  
 TEL 0220-52-2316 SNS Facebook, Instagram



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

公民館が公設公営から「公設民営」の指定管理制度となって10年。古い街並みと歴史、文化はあるが若者・担い手がいなしと言われ続けた少子高齢化の町の活性化を目指し、**地域の住民主導によるまちづくり**がスタートした。これまでであった38の行政区、3つのコミュニティを一つにまとめ、**シンプル・スリムな組織**を目指し、住民の声やニーズを集めて第3次となる地域づくり計画を策定した。地域にある教育機関やコミュニティスクール、福祉団体とも**連携・協働を進める**ことで、公民館が社会教育・貸館業務にとどまらず、**多様な世代が集い交流できる場**となっている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【とよま応援サポーター青年団羽波芭酒場/ばばばバー】(こども・若者の居場所づくり)

既存の伝統事業に加え時代のニーズをとらえた新規事業を開始し、**多様な若い世代が集結**。「自称」青年たちが「とよま愛」を熱く語り合い、参加者発案の竹あかりづくりワークショップを開催した。今後、**竹の灯りが町の新たな風物詩**として広まることが期待されている。

【共に学び、生きる共生社会実現の共生事業】(障害者の学び支援)

県の指定事業を受託した共生事業では「**共に学び、生きる共生社会**」実現のために「障害があってもなくても、誰もが参加できるダンス教室」を開催した。地域の特定非営利活動法人・奏海の杜と地域に根ざして活動しているダンス教室GUIDANCE STUDIOを**公民館がマッチング**し、盆踊り会場で障害を持つ子どもがダンスを披露した。県主催の共生社会コンファレンスで発表し、参加者から注目を集めた。

【**地域の学校・コミュニティスクールとの協働・連携**】(地域学校協働活動)

小学6年生が対象の「凧づくり交流」では、地域の方を講師に招き、凧紙と竹ひごを使い世界に一つだけの菱凧を作ったり、60年続く伝統の凧あげ大会に参加した。また、ジュニア・リーダーが大会の運営に参加した。

「北上川学習」では、地域団体「かっぱの会」の協力を受け、小学4年生が川下り体験をした。この他にも盆踊り大会で中高生のボランティアが、縁日コーナーを自主運営したり、高校生インターンシップ職場体験では、高校生が料理教室の運営に参加するなど学校や地域の団体との**連携・協働を進めている**。盆踊り大会に参加した中高生ボランティアから「やりがいがあり楽しかった」の声があがるなど参加した方々からも好評を得ている。



羽波芭酒場（竹あかり作り）



ダンスを通じた共生事業

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

●青年団は毎月一回、交流会を開催し、特にテーマを決めず、参加者が**自由に語り合える場を絶やさないように継続**した。何も発言しなくても、仲間とそこにいることが楽しく、**自然体で過ごせる居場所**となるような空気感を大切にしている。

●障害があってもなくても、**それぞれのペースに合わせて参加**できるよう、講師や施設職員と密に連絡を取り、開催日時や内容など参加者の様子を見ながら臨機応変に対応した。

●高齢化と担い手不足が深刻な町で、小中高生が体育大会、文化祭などに**参加・参画**し、秋まつりや神楽、お囃子などの伝統文化行事にも関わり、運営ボランティアとして活躍している。公民館とコミュニティスクールとの協働、学校運営協議会との連携が**地域の活性化に良い影響を与えている**。



盆踊り大会中高生ボランティア

## 4. 取組による成果や効果

●青年団に毎回多くの若い世代が集まり、活発に交流していることに、**地域の注目と期待**が高まっている。

●参加者のニーズに合わせて事業展開しており、ダンスが大好きになった子供たちは、**表現したい気持ち**が大きく成長した。就労支援事業所の利用者も公民館の講座に参加し、**地域の方とのふれあい**を楽しんだ。

●多様な若者の参加により、**世代を超えたつながり**が生まれ、**町のにぎわいや活性化**が図られた。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

昨年度より38の町内会の代表が構成員となったことにより、コミュニティの各部会が活発となり、役員、理事の**意識も変わってきた**。毎月開催している事務局会議で事業計画、報告を行い、青年団や地域**住民の意見を共有**し、事業の検証・改善を行っている。理事会や総会でも前向きな意見が出るようになり、現状や課題、振り返り、改善点等について議論している。事業毎の実行委員会、反省会への**参加者も増加**している。



地域づくり計画打合せ

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

①**住民参加型の互助的な**高齢者生活支援事業 ②**子どもの居場所・遊び場創出**事業 ③気仙沼市の公民館との**市域を越えた交流**事業の3つを今年度より始めると共に、コミュニティのスローガン「One for all All for one」のもと、**町の核**となる公民館から、**地域づくりの小さな一歩**をスタートさせたい。



とよま地区市民体育大会

# 地域をつなげ、楽しくつながる公民館を目指して

## 塩尻市中央公民館(長野県)

### 公民館の沿革・年表

- 昭和34年 塩尻市公民館発足
- 昭和56年 塩尻市中央公民館に名称変更  
塩尻総合文化センター(中央公民館)開館
- 平成10年 全国優良公民館文部大臣表彰
- 平成30年 Facebook運用開始  
(以後順次他のSNS運用も開始)
- 令和元年～ 公民館主事による公民館活動報告会 開催
- 令和2年～ 公民館活動記録集 作成
- 令和3年～ サマースクール公民館 開催
- 令和6年 公民館活動報告会をコミュニティ・スクール  
と連携  
コミスク公民館フェスタとして開催

### 左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- 地域住民や団体をつなげ、地域のネットワークが広がるようなハブの役割を担う  
公民館や社会福祉協議会、図書館、ボランティア団体や住民をつなげ、公民館の事業化へつなげた。代表的なものは夏休みの子どもたちをメインターゲットとした「サマースクール公民館」。
- 公民館活動報告会からコミスク公民館フェスタへ  
地域住民、また市長や教育長に公民館活動をより知ってもらうことを目的に、毎年度末公民館主事による活動報告会を開催。令和6年はコミュニティ・スクール関係者と連携し、「コミスク公民館フェスタ」として開催し、小中学校・公民館のポスターセッション、中学生と地域住民がともに登壇したパネルディスカッションなど開催。



サマースクール公民館



コミスク公民館フェスタ パネルディスカッション

公民館情報		1. 公民館対象人口	65037人	4. 利用可能時間	8:30~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和56年12月5日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	341日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	30台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 2,523人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 54,129人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 101人 <input type="checkbox"/> その他 人 ( )				<b>合計 56,753人</b>
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 2人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 1人 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 1人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 1人 )				<b>合計 3人</b>
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算    寄附等    その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・ディバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input checked="" type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 国際交流、平和学習、社会教育実習の受け入れ など )				
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( ふれあいプラザ ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ( )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input checked="" type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 地区公民館、市役所各部署、市内小中学校、松本大学、長野県生涯学習推進センター、社会福祉協議会、図書館、自然体験活動ボランティア熊野井塾、市民活動団体hana-tomoなど )				

左からfacebook, インスタ, XのQRコード

### 塩尻市中央公民館

HPから各種SNSを閲覧可能

OPEN 8:30~22:00

H P <https://www.city.shiojiri.lg.jp/soshiki/61/>

T E L 0263-52-0899

SNS facebook, Instagram, X, LINE



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 本館は全市民を対象とした事業展開、また地区公民館や分館活動が円滑に展開されるための連絡調整、多様な団体・地域住民を巻き込んだ公民館活動の推進が主な役割であるが、参加者の固定化、利用者の高齢化、また市民へ公民館活動が浸透していない課題等を抱えていた。より市民に親しみやすく、また大勢の人に公民館活動を知ってもらう仕掛けづくりを行った。
- 社会情勢の変化により、人間関係の希薄化や貧困問題などの課題が生まれ、またコロナ禍において公民館活動が衰退した地域も発生した。それらの課題解決のために、つながりの場づくりや地区公民館・分館の支援などを行いつつ、各講座にしっかり目的をもたせて実施した。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### ●サマースクール公民館（子どもをまん中にした活動）

子どもたちが夏休みに1日楽しく学べる事業。7公民館、図書館、博物館、庁内部署など市の関係機関の他、社会福祉協議会や芸術団体、中学生高校生などに協力していただき、2日間で28講座実施。お昼ごはんはボランティアによるおにぎりや豚汁などの無償提供を行った。

### ●コミスク公民館フェスタ（学校教育と社会教育の協働）

コミュニティ・スクール関係者と公民館が連携し、各種講座、各小中学校と公民館のポスターセッションや活動発表、パネルディスカッションを開催。当日は大勢の小中学生、保護者、学校教育社会教育関係者などが参加。

### ●里山をフィールドにした活動（子どもたちの原体験）

自然活動ボランティアの協力により季節ごとの里山を楽しむ活動を年7回実施。自然観察やシチューづくり、やきいもづくりなどを実施。また出張図書館を同時開催し、里山で読書や読み聞かせを楽しむ様子が見られた。

### ●ゆる活・公民館でおひるごはん（公民館活動に参加するきっかけづくり）

公民館に気軽に来てもらうことを目的にテーマを決めて好きなことについておしゃべりする「ゆる活」、1品おかずを持ち寄る「公民館でおひるごはん」を毎月開催。

### ●インターナショナルお楽しみ会（国際交流）

令和5年度より国際交流をテーマに開催。高校生大学生が企画・運営を行っている。外国籍住民だけでなく、国籍・年代問わず大勢参加し、食事やレクリエーションを通じて交流した。

### ●公民館研究集会（地区公民館・分館支援）

地区公民館・分館役員対象に事例発表や情報交換などの研修集会を年1回開催。「自分自身が楽しむ公民館活動」を目指し、役員自身が楽しみながら行う公民館活動を目指す集会。



里山 夏のデイキャンプ



公民館でおひるごはん

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

### ●地域のことを自分事に（公民館の認知度アップ）

学習テーマを様々設けたことにより、固定層以外にも大勢の方が参加していた。公民館講座や地域活動に参加したことのない人が参加することがあり、地域デビューのきっかけづくりになった。自ら参加することで地域のことを自分事に考える感じる場となっている。

### ●中央公民館と地区公民館、他団体との連携

10地区公民館を年度始めに訪問し、事業の詳細や課題を共有。また地区公民館の要請から一緒に事業を企画・実施し、講座づくりの一助を担った。また市役所関係部署や社会福祉協議会などの情報交換を定期的に行い、そこから連携した事業に繋がることもあった。

### ●住民自治の原点である分館活動の活性化へ

公民館研究集会で分館同士の情報交換を行い、そこからお互いの分館の活動を見学したり、自らの地区の活動に取り入れる事例があった。当館でも分館から相談があれば助言をした。



地区公民館・社会福祉協議会と連携した防災料理講座

## 4. 取組による成果や効果

- ・公民館が誰でも気軽に来られる、活動に参加できる場として一歩前進し、中学生高校生、20-40代など以前はあまり参加がなかった年代の参加も増加してきた。
- ・地域住民や団体をつなげ、地域のネットワークが広がるようなハブの役割を担った。また地区公民館や分館、様々な地域団体や住民との連携を図った。
- ・公民館館長や主事、役員意識の向上。自らが楽しみながら公民館活動に携わる意識が浸透し始めた。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 社会教育・学校関係者、社会福祉協議会、市民活動団体等で構成する公民館運営審議会を年2回開催。また審議委員には研究集会やコミスク公民館フェスタなどを案内し、実際に公民館活動を見てもらい意見をいただいた。
- 市内地区公民館長・主事で構成する公民館長主事会議を年7回開催し、各公民館の事業について情報交換を実施。
- 公民館事業の報告書とチラシをまとめた「公民館活動記録」を作成し、その際に1年間の活動について振り返りを実施。
- 講座実施時の参加者からのアンケートや会話等を今後の公民館事業の参考にしている。

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

公民館は地域住民にもっとも近い地域拠点であり、人と人とのつながりを醸成する場であるので、気軽に公民館に来られる仕掛けづくりを継続していく。また地域のネットワークづくりを構築することが重要な役割であり、公民館が地域でのハブの質を高め、自らが楽しみながら地域をつなげていきたい。その楽しみの輪、つながりの輪が広がるような事業展開を大勢の住民や団体を巻き込みながら検討していく。



講座内で高校生と小学生が遊ぶ様子

# 笑顔の花咲く安田公民館

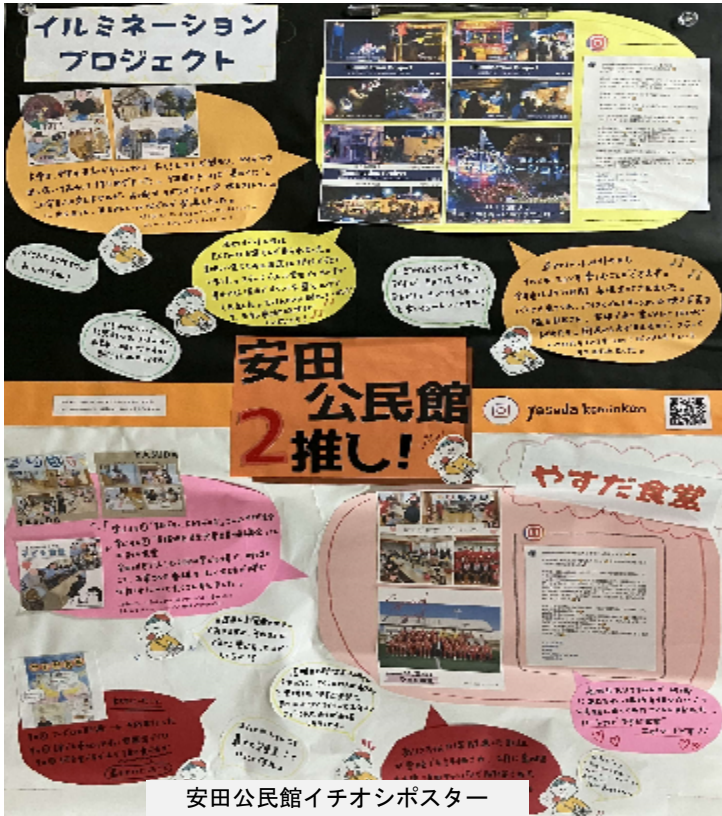
## 益田市安田公民館(島根県)

### 公民館の沿革・年表

- 昭和27年 安田公民館開設
- 平成16年 安田地区振興センターを設置
- 平成21年 優良公民館表彰(県教育長表彰)を受賞
- 平成30年 安田地区振興センターを廃止
- 令和2年 第1回イルミネーションプロジェクト開催
- 令和6年 やすだ食堂実施

### 左図・写真の説明など(PRポイントなども可)

- ・益田市内の公民館では、1年間の取組を総括したポスターを毎年作成しており、公民館職員同士の情報交換や「ひとが育ち輝くまち益田夏フェス」での展示などに活用している。安田公民館では、令和6年度の取組を「安田公民館2推し!」としてポスターを作成した。
- ・地域で活動する大学生と中学生が企画の中心となり、イルミネーションの装飾や点灯式の開催などによって公民館を盛り上げた。
- ・「地域食堂」をテーマに課題探究に取り組む高校生に公民館が伴走し、様々な地域の団体や住民の協力を得て「やすだ食堂」を実現させた。



安田公民館イチオシポスター

<b>公民館情報</b>	1. 公民館対象人口	3327人	4. 利用可能時間	8:30~21:00
	2. 建物設置年月日	平成17年5月29日	5. 来館者のインターネット接続環境	無し
	3. 開館日数	232日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	不明
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座	275人	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動	8,667人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	1,855人	( 会議・文化祭・イルミネーションイベント 等 ) <b>合計 10,797人</b>	
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任	4人	<input type="checkbox"/> 兼任	人
	( 職員のうち社会教育士の数 人   職員のうち社会教育主事有資格者の数 人 )		<input type="checkbox"/> 非常勤	人
<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 <b>合計 4人</b>				
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )			
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災	<input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 体験活動
	<input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動	<input type="checkbox"/> 障害者の学び支援	<input type="checkbox"/> 日本語教育の推進	<input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動	<input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動	<input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成	<input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール	<input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し
<input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター )			
	<input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 図書室、おしゃべりカフェ(談話スペース)、日本海を望む景観 )			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等(団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所	<input checked="" type="checkbox"/> 小中学校	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 大学
	<input checked="" type="checkbox"/> 企業	<input checked="" type="checkbox"/> NPO	<input checked="" type="checkbox"/> 各種団体	<input checked="" type="checkbox"/> 行政機関
	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 博物館	<input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設	<input type="checkbox"/> その他
	<input type="checkbox"/> 安田地域づくり協議会、安田つろうて子育て協議会、東陽中学校区ネットワーク会、東陽地区民生委員児童委員協議会、安田ボランティア協議会、安田地区更生保護女性会等			

### 益田市安田公民館

OPEN 8:30~17:15 H P

TEL 0856-27-0001

SNS <https://www.instagram.com/yasudakominkan/>



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

安田公民館は、世代を超えた交流の場づくりを公民館運営の柱に掲げている。しかし、コロナウイルス感染症流行の影響によって教室や行事などを中止にせざるを得なくなり、地域住民が集う機会がなくなってしまった。そこで、感染症対策を取りながらも、住民が楽しみながら集まることができる場を作りたいと考えた。また、日常的に住民の「やってみたい」の声を聞き、住民ニーズの実現に向けた支援に取り組んでいる。安田地区に住む益田翔陽高校の生徒が「地域食堂」をテーマに課題探究に取り組んでいることを聞き、この取組に伴走することで、高校生の思いを実現させ、子どもから大人まで多くの人が交流する場を作りたいと考えた。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【やすだ食堂（地域学校協働活動）】

「笑顔がいっぱい人と人がつながる場を作りたい」「地域の方々が安価で楽しく食事のできる場所を作りたい」という生徒の思いを大切に、生徒が提案した計画やアイデアをもとにアドバイスをしたり、一緒に協力者のもとに出向いたりした。学校・保育園・民生委員・料理アドバイザー・ベルガロソいわみ（生徒が地域食堂をテーマにするきっかけとなった、地域食堂への支援に取り組むサッカーチーム）らと連携し、令和6年8月4日と11月24日に「やすだ食堂」を開催した。

### 【イルミネーションプロジェクト（世代間交流）】

感染症対策として3密を避けつつ、住民が公民館に足を運んでくれる取組として、令和2年度に「イルミネーションプロジェクト」を立ち上げた。現在でも、地域をさらに元気にすること、住民が気軽に参加でき、多様な世代が集まる場を目指して続けている。東陽中学校の有志生徒と安田地区で海の家を営業する県立大学生が企画の中心となり、毎年イルミネーションのテーマを決めている。多くの地域住民と一緒にイルミネーションを作り上げ、12月から1月まで公民館で点灯。また、点灯式を開催し、保育園・小学校で作った紙灯籠の展示や、高校生の進行によるステージ発表が行われた。ステージには、大学生、小中学生、地元の音楽団体が出演するなど、子どもから高齢者まで多くの地域住民が集まるイルミネーションプロジェクトになっている。



やすだ食堂の様子



イルミネーション作成の様子

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

### 【やすだ食堂】

- ・公民館だよりで周知を行い、地域住民から食材の寄付を募った。
- ・高校生と一緒に小学校へ出向き、開催の告知を行った。
- ・民生委員と連携したことで、貧困家庭の参加にも繋がった。
- ・誰でも参加しやすく、楽しそうな雰囲気を作るため、生徒と打ち合わせを行い、テーブルの並べ方やキッズスペースの設置などを工夫した。

### 【イルミネーションプロジェクト】

- ・ゆっくりイルミネーションを眺めたい人やお祭りに参加したい人など、様々な人が楽しめるように、1ヶ月間の展示に加え点灯イベントも開催した。また、帰省で訪れる人にも配慮し、年末年始を含む開催時期とした。
- ・保育園、小学校、企画メンバー以外の中学生、大学生、青少年育成会議、自治組織、ステージ出演者など様々な団体を巻き込んだ。



やすだ食堂チラシ

## 4. 取組による成果や効果

- ・やすだ食堂は、2回の開催でのべ203名の参加・参画があり、食事を通じて多世代が交流する姿がみられた。この取組が評価され、中心となった生徒が島根探究フェスタ2024に出場するなど、生徒にとっての学びも充実した。また、生徒と地域の大人が繋がり、この事業以外にも交流を持つ機会が生まれた。
- ・イルミネーションプロジェクトの点灯式には300名程度が参加し、地域への愛着やつながりを深めるきっかけとなり、「地域を元気に」の目標に向かって、保育園・学校・青少年育成会議・自治組織などが協働することができた。
- ・事業に加え、毎月発行する公民館だよりやSNSを活用した事業や講座の情報発信に力を入れたことで、多くの人に公民館について知ってもらい、公民館の利用者の増加に繋がった。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・自治会や学校の関係者等で組織される公民館運営委員会を年2回開催し、公民館の取組について、検証を行い、改善を図り、次年度の公民館事業の計画に生かしている。
- ・やすだ食堂については、参加者にアンケートを実施したほか、高校の課題探究発表会で教員等からもフィードバックをもらった。その他、生徒の様子や地域住民の様子について意見交換を行っている。
- ・イルミネーションプロジェクトについては、協力団体から意見を聞き取り、次年度に向けて改善を図っている。



課題探究発表会の様子

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

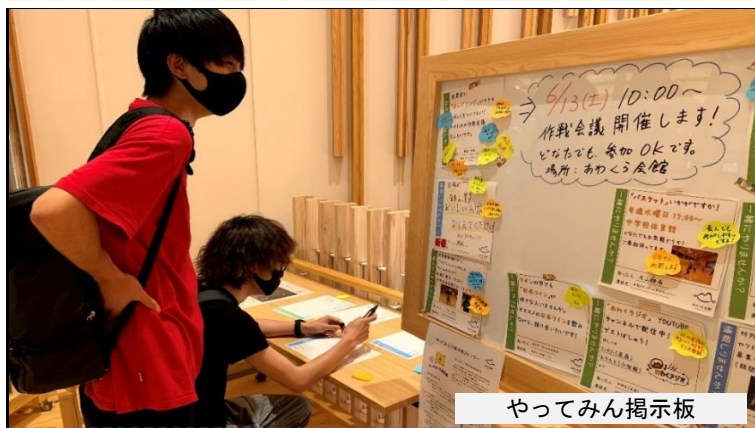
地域住民がふらりと立ち寄るような居心地の良い公民館を目指したい。また、「誰かと出会える」「何かと出会える」と住民に思ってもらえるような公民館でありたい。公民館に来ることが困難な人も多いため、公民館から地域に積極的に出かけるなどして、地域の人の要望や「やってみたい」の声にアンテナを張り、実現に向けて働きかけていきたい。



おでかけ公民館の様子

# 人と人をつなげるジェネレーター

## 西粟倉村あわくら会館(岡山県)



やってみん掲示板



村民講師企画「プログラミング講座」

### 公民館の沿革・年表

- 平成24年 基幹施設建設事業 基本構想・条件整理
- 平成29年 プロポーザル・施設設計開始
  - ・村民ワークショップ開催 (4回)
  - ・生涯学習施設活用検討委員会 (6回)
- 令和2年4月 生涯学習エリア 開館
- 令和3年2月 第4回公民館職員が選ぶ! 講座アワード グランプリ受賞 (村民講師企画)
- 令和3年10月 木材利用優良施設コンクール 内閣総理大臣賞受賞

### 左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- やってみん掲示板  
掲示板内で交流しながら、イベントや活動が実現していく。深いつながりが無い村民同士が共通の趣味や興味でつながり村民の、生きるを楽しむ活動の可能性を広げることが目的。音楽を一緒に楽しむ個人企画では、施設外を会場にして集まる企画へ発展している。
- 村民講師  
村民が仕事・特技・好きなことや趣味を生かし、講師となる。村民の多様な体験機会が増え、好きなことや趣味を見つけたり、広げたりすることができる。写真は地域おこし協力隊によるプログラミング講座の様子。小学生から70代と多世代が参加している。

公民館情報	1. 公民館対象人口	1318人	4. 利用可能時間	08:30~22:00
	2. 建物設置年月日	令和2年4月5日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
	3. 開館日数	338日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	500台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( <input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会 ) <input type="checkbox"/> その他 ( )			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1045人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 7422人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 344人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 13625人 ( 図書館利用、テレワーク等 )			合計 22,436人
9. 職員数	<input type="checkbox"/> 専任 0人 <input checked="" type="checkbox"/> 兼任 4人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 2人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人 ( 職員のうち社会教育士の数 0人    職員のうち社会教育主事有資格者の数 0人 )    合計 6人			
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
11. 公民館運営審議会	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 西粟倉村社会教育委員会 )			
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )			
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 役場庁舎 ) <input type="checkbox"/> 自由記述 ( )			
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> 小中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input type="checkbox"/> その他 ( 西粟倉村文化協会、一般社団法人Nest、一般財団法人むらまると研究所 )			

### 西粟倉村あわくら会館

OPEN 10:00~18:00  
TEL 0868-79-2116

H P <https://www.vill.nishiwakura.okayama.jp/wp/awakurakaikan/>  
SNS <https://www.instagram.com/awakurakaikan?igsh=MWVvZmZp3MwMXhpMA==>



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

2006年から林業の6次化等から、ローカルベンチャーの増殖を推進してきた。これまで60以上の事業が生まれ、人口約1,300人の村で200人を超える特に20代～40代の若い移住者が村内で多様なチャレンジを行っている。

その中、地元出身者と移住者のつながりの場が少なく、それぞれのコミュニティが形成。村民同士のとつながりが課題であった。また、人口の少ない村では、村民が好きなことや趣味を見つけ、広げ、深めるための多様な機会をつくることも課題であった。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【やってみん掲示板・村民講師（地域資源を活用したまちづくり）】

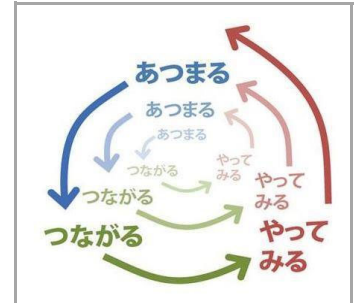
あわくら会館の施設ビジョン『あつまる、つながる、やってみる、』は、村民が「あつまって、つながったから、やってみる。」「つながって、やってみたら、あつまった。」「やってみて、あつまったから、つながれた。」が持続的に循環していることを目指している。

あわくら会館では、村民が主体的に生涯学習活動を創造することで、地域ニーズに合った地域リソースなどの活用が増え、持続可能な運営となることでより持続可能な運営を目指した。スタッフは村民の「やってみたい」を一緒になって面白がり、創造の連鎖が起こるように関わる「ジェネレーター」として、企画化をサポートしている。

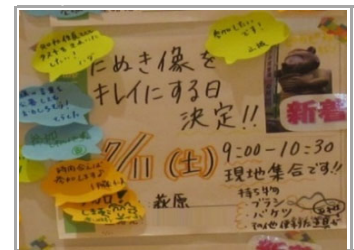
やってみん掲示板は、「イベントやります」「一緒にやりませんか？」「情報知りませんか？」をテーマに投稿できる。アナログ版X（旧Twitter）をイメージし、掲示板内で交流しながらイベントや活動が実現していく。深いつながりがない村民同士が共通の趣味や興味でつながり村民の「生きるを楽しむ」活動の可能性を広げることが目的。

村民講師は、村民が仕事・特技・好きなことや趣味を生かし、講師となる。村民の多様な体験機会が増え、好きなことや趣味を見つけたり、広げたりすることができる。村民講師は自分を知ってもらうことで、地域の協力や後押しを受け取組の広がりができる。また、自らの事業の試す場になることでWin-Winでフラットな関係でつながる場としている。

共にスタッフは企画の広報や実現可能にするためのヒアリングを行っている。このように伴走をスタッフの役割としたつながり作りや多様な機会の創出の仕組みとしている。



施設ビジョンのイメージ図

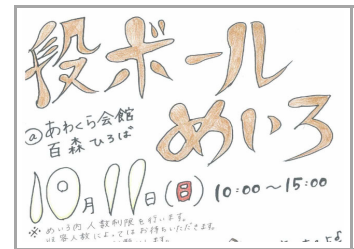


やってみん掲示板企画

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

あわくら会館では、自由な使い方を創り出せる施設として、貸館は村民であれば無料。さらに、施設の使い方を利用者が考え、利用できるよう貸館ルールは最小限にしており、利用方法の問い合わせに対して、可能となる方法をスタッフが一緒に検討していく「空間的サポート」により活動をサポートしている。

さらに、知りたい情報を知ることができる施設として、人が持つ情報は、村民の活動を広げるために重要であり、スタッフは情報が集まってくるハブの役割を担っている。全館ワークスペース利用可能とし、仕事やプライベートにおける様々な「やってみたい」に化学反応が生まれる場所になっている。



村民主催企画チラシ

## 4. 取組による成果や効果

令和6年度の企画数120件、延べ参加者数1,389人の実績の内、村民企画は57件と実施企画の半数となっている。

このような、地域ニーズでの運営、地域性や地域課題解決を組み合わせた取り組みを継続してきたことで毎年、年間延べ21,000人を超える来館者数となっている。（人口：1,300人）

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

取組を評価・検証するため、施設ビジョンにあわせた評価指標を立てている。「あつまる」では館内サービス利用者数。「つながる」ではスタッフがつながりのコーディネート件数。「やってみる」では利用者が参画した企画数をもとに評価を行っている。

各取組においてもアンケートを実施。アンケートの結果は上記の評価指標と連動したものとなっており、アンケート回収率も90%を目指している。

この評価指標を毎月の教育委員会との定例会にて共有し、データから仮説とアクションについて協議するとともに西栗倉村社会教育委員会の会議にて意見徴収を行っている。

観測	意味	アクション
データから見た課題	データから見た課題	次の行動
【目標あり】館内サービス利用者数が増えること（2024年10月～2025年3月）	本館にはなるべく多くの人が来館できるようにしたい。	本館の開放時間は延長し、本館の開放時間を延長する。
館内スタッフと、利用者との交流が増えること	本館は利用者が多いが、滞在時間は少ない。滞在時間を長くしたい。	利用者が滞在し、本館の開放時間を延長し、本館の開放時間を延長する。
村民より望まれる企画が実現すること（2024年10月～2025年3月）	村民の要望は平日に限定し、村民の要望が実現できるようにしたい。	村民の要望は平日に限定し、村民の要望が実現できるようにしたい。

定例会評価指標資料

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

「村民ジェネレーターの多発」

自由な使い方を創り出せる施設「空間的サポート」を運営から、スタッフがジェネレーターとして、村民の個人企画をサポートしてきた。次のフェーズでは、村民がジェネレーターとなり、村民同士がサポートをし合いながら多様な企画が多発していることを目指したい。



村民講師企画

# 学び・つどい・つながる 松元公民館

## 鹿児島市松元公民館(鹿児島県)



マラカスの会



幼稚園児と職員の交流

### 公民館の沿革・年表

- ・昭和57年 松元町立中央公民館として開設
- ・平成15年 一部増築(エレベーター設置等)・改修
- ・平成16年 市町村合併により鹿児島市松元公民館に改称
- ・令和2年 大規模改修工事
- ・令和3年 リニューアルオープン

### 左図・写真の説明など (PRポイントなども可)

- 「マラカスの会」の様子  
不登校児童生徒の保護者の悩みを共有できる場所として、「マラカスの会」を月1回開催している。進学先や学校との連携について参考にできる話題も多く、相談しやすい拠り所となっている。また、不登校児童生徒が学習室で学習したり、ホールでピアノを弾いたりして公民館で過ごす様子も見られる。
- 乳幼児親子向けふれあい講座の様子  
図書室ボランティア「茶々の会」による絵本の読み聞かせと工作活動、外部講師による音楽と簡単な動きを組み合わせた講座を月1・2回実施し、好評を得ている。

公民館情報		1. 公民館対象人口	18047人	4. 利用可能時間	8:30~22:00
		2. 建物設置年月日	昭和57年4月1日	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)
		3. 開館日数	357日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	200台
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会 <input type="checkbox"/> 指定管理者 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1,212人 <input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 3,600人 <input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 2,776人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 46,372人 ( )				<b>合計 53,960人</b>
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 人 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤 6人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 人 ( 職員のうち社会教育士の数 0人 職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人 )				<b>合計 7人</b>
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ( )				
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ( )				
12. 公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 地域防災・減災 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル・デバイドの解消 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> 日本語教育の推進 <input type="checkbox"/> 義務教育未修了者への支援 <input checked="" type="checkbox"/> 伝統文化継承活動 <input checked="" type="checkbox"/> 世代間交流活動 <input checked="" type="checkbox"/> こども・若者の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア養成 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input checked="" type="checkbox"/> 社会人の学び直し <input type="checkbox"/> その他 ( )				
13. 施設の特徴、魅力	<input type="checkbox"/> 複合施設 ( <input type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター ) <input checked="" type="checkbox"/> 自由記述 ( 館内バリアフリー(エレベーター、車いす用スロープの設置等)、図書室、託児室、授乳室 )				
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 鹿児島市立科学館、鹿児島市立少年自然の家、かごしま環境未来館、市聴覚障害者協議会、松元中学校、松陽高校、松元地域自主学習グループ連絡会、校区まちづくり協議会(松元・石谷・東昌・春山)、図書室ボランティアグループ「茶々の会」、鹿児島日韓文化交流会 )				

### 鹿児島市松元公民館

OPEN 8:30~22:00 H P [https://www.city.kagoshima.lg.jp/kvoiku/kvoiku/syogaigaku/shisetsu/shozai\\_020.html](https://www.city.kagoshima.lg.jp/kvoiku/kvoiku/syogaigaku/shisetsu/shozai_020.html)  
 TEL 099-278-1312 SNS <https://www.instagram.com/syogaigaku/>



## 1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

- 鹿児島市の中でも人口の増加が顕著で、特に**40歳代・30歳代の子育て世代の人口が多い**地域である。しかし、町内会の加入率が低く、様々な情報が行き届きにくいという課題がある。
- 住民の生涯を通じた**学習意欲は高く、複数講座の受講や繰り返し受講**する利用者も見られる。長期的な運営の視点に立った場合、**次代を担う新たな利用者の開拓が必須**である。そのため、地域住民の様々な世代の**学習ニーズを考慮した館の運営や環境整備、関係機関との連携**等により、生きがいづくり、地域づくりへとつなげていくことが求められている。

## 2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

### 【地域で学ぶ公民館～ヒト・モノ・コト及び利用者の声を生かした講座の展開～(世代間交流)】

地域住民の**学びのニーズに応える講座づくり**を目指し、利用者の声を積極的に取り入れた**共創型の講座展開**に取り組んでいる。公民館運営審議会での話題をきっかけに、**地域人材や自主学習グループを講師として活用した講座**を設けたり、まちづくり協議会の活動場所で**移動講座**等を行ったりするなど、**地域における生涯学習を支援**することに貢献している。



地域住民を活用した講座【陶芸】

### 【地域が集う公民館～子育て世代が利用しやすいために～(家庭教育支援)】

年代別人口で多くを占めている40歳代と30歳代の子育て世代が利用しやすいよう、**託児室の整備、親子講座の実施、託児付き講座の拡大**等に取り組んでいる。図書室においても、本を通じた親子のふれあいを支援できるよう、**親子読書スペースを設置**したり、**定例のおはなし会を実施**したりしており、図書室利用の促進にもつなげている。また、松元地域の人口増加に伴い、不登校児童生徒も増加していることから、**保護者が悩みを共有できる場所**として、令和5年より「**マカスの会**」を月1回開催している。



常設された託児室

### 【地域をつなげる公民館～関係機関との連携～(地域学校協働活動)】

地域にある4つの**まちづくり協議会と自主学習グループをイベント等を通してつなぎ**、地域の要望をもとにした地域貢献活動を自主学習グループが行っている。また、季節の行事での**幼稚園との連携**や、公民館まつりでの**高校生ボランティアの参加**や**演劇部の出演**など、地域内の学校等と連携することで**児童生徒が活躍できる場を設定**している。

## 3. 取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

### 【地域で学ぶ公民館～ヒト・モノ・コト及び利用者の声を生かした講座の展開～】

**自由に書き込める掲示板やアンケート**で利用者のニーズを調査した。また、公民館運営審議会からの意見をもとに「**行きたくなる公民館**」を掲げて**運営**を行った。

### 【地域が集う公民館～子育て世代が利用しやすいために～】

親子でゆっくり過ごせるよう**託児室や親子読書スペースの設営を工夫**し、**常に開放**している。「マカスの会」では、児童生徒も来館できるよう**職員全員で支援**を行った。

### 【地域をつなげる公民館～関係機関との連携～】

公民館まつりでは、地域内の学校等に出演やボランティア参加の**意向調査**を行った。また、**まちづくり協議会長からの要望に応じて自主学習グループを紹介**したり、行事に参加したりするなど**地域のハブ**の役割を果たした。



高齢者クラブクリスマス会へのプレゼント提供

## 4. 取組による成果や効果

- ニーズに応じた講座の開設等が**公民館活動の認知度と利用者数の増加**に繋がり、**リピーターも増えて**きている。
- **親子講座の応募率が2倍に、おはなし会の参加者数が1.5倍**になるなど、親子での公民館利用が増えている。また、保護者だけでなく、**不登校児童生徒が短時間でも社会とつながることができる場所**となってきた。
- 自主学習グループとまちづくり協議会の連携により、**自主学習グループ会員の意欲向上**に繋がった。公民館まつりでは、**2,000人以上**の参加者があり、**地域で活動している団体や地域の文化に触れるよい機会**となった。

## 5. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- 学校関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者、学識経験者6名で構成する**公民館運営審議会を年2回開催**して、諮問事項について得られた意見を事業改善に生かしている。
- 事業や講座の参加者にアンケートを実施し、得られた意見等を踏まえて次回の企画・運営を改善しており、**PDCAサイクルを意識した公民館運営**を行っている。



親子によるおはなし会の様子

## 6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

高齢化や町内会の加入率低下などの課題を抱えている。自主学習グループはもちろんのこと、地域人材や関係団体等を巻き込みながら**包括的な学習機会を提供**できるような活動を展開していきたい。また、学校の学習成果発表会を地域に開かれたイベントとして公民館が共催するなど、**若い世代を公民館活動等に取り込み**、松元地域ならではの**新たな松元公民館のブランド化**を図りたい。



県文化財課との連携講座